

きど 神戸市議員 木戸 さだかず 活動報告 2023.9



1974年生まれ

- 神戸大学卒業、京都工芸繊維大学大学院修了、淡路景観園芸学校修了
- 京都で植木職人として修行後、設計コンサル勤務。
国営明石海峡公園の基本設計や自治体の景観形成条例策定等に携わる。
- 兵庫県議会議員1期（2019～2023）
- 2023年4月より神戸市議員（神戸市須磨区）

児童虐待をなくす ために、 わたしたちが出来ること。

変形した鉄パイプ・食事ができないほど衰弱

2023年6月22日、神戸市西区の草むらで穂坂修くん(6)の遺体がスーツケースに入った状態で見つかった事件は言葉を失いました。

修くんの死因は外傷性ショックで、同居する親族から日常的に虐待を受け、鉄パイプで殴られた背中の筋肉は内部の組織が破壊されていました。

次から次に繰り返される児童虐待事件。

虐待通報件数は年々増え続けています。 どうしたら虐待をなくすことが出来るのか。悔しい気持ちを抱えながら、神戸市の児童相談所（神戸市こども家庭センター）を調査してきました。



48時間以内安否確認ルール守れず

現在、虐待が疑われる場合、原則48時間以内に目視による安否確認をすることが全国の児童相談所（児相）のルールとして定められています。

しかし、修くんの事件では、児相が修くんに痣があり虐待疑いがあるとの通報を受けながら、**修くんに出会えたのは7日後**でした。

さらに、事件前の6月1日には、家族から修くんの一時保護は不要との返答がありそのまま引き

下がっていました。

48時間ルールは、京都府で3歳の男の子が食事を与えられずに餓死した2006年の事件で、児相に通報があったのに虐待死を防げなかったことが発端となり全国的に導入されたルールです。

今回の調査では、なぜルールを守れなかったのか、守っていれば命は救えたのではないかとの思いも児相にぶつけてきました。